

高木復興大臣福島県訪問ぶら下がり会見録  
(平成27年11月9日(月) 12:28~12:34 於) 広野町役場)

1. 発言要旨

本日は、双葉町役場いわき事務所、広野町役場を訪問させていただきました。伊澤双葉町長との意見交換では、この3月に策定した双葉町復興まちづくり長期ビジョンの実現に向け、町内復興拠点や双葉インターチェンジ及びアクセス道路等の早期整備や、復興祈念公園等の整備に特段の配慮をいただきたいという話をいただきました。

また、早期に是非現場を視察してほしいという話もございましたので、また視察をしたいという話もさせてもらいました。また、遠藤広野町長との意見交換では、災害や事故を契機に生活様式が変わる中での新しいまちづくりに取り組む、また賠償格差についての整合性の確保などの話もございました。また、いわゆる第二原発の廃炉の話もお聞かせいただきました。常磐線の全線復旧などインフラの整備、双葉郡全体が帰町できる環境づくりについて、理解と支援の要望を受けました。

そうしたお話をいただきまして、私からは双葉町の町内復興拠点あるいは道路、復興祈念公園の整備について、国県が連携して最大限の支援、早期実施に取り組むという話をさせていただきました。また、先程も申し上げましたけれども、早期に双葉町の現地視察も行いたいという話もさせていただきました。

広野町では、新しい価値観に基づく新しいまちづくりの考えというのを聞かせていただきましたけれども、よく理解できたというふうに思っております。

原発政策につきましては、地元の方々の考えを尊重すべきだという話もさせていただきました。鉄道整備の思いもしっかりと受け止めさせていただきました。

いずれにいたしましても、両町長から真摯な、本当に切実な思いをいただきましたので、復興庁としてこれからそうした御要望に伝えていきたいという話をさせていただいたところでございます。

私からは以上でございます。

2. 質疑応答

(問) 大臣、今日広野町を視察され、視察というか町長とお話をされて、大臣の中から、広野町はいち早く帰還が進んでいて、こういった地域の中心になっていくというお話がありましたけれども、一方で町民が今のところまだ6割ほどしか戻っていないという現状もありまして、そういった現状をどう考えていらっしゃるか。

(答) これから、町長を中心にしっかりと多くの方が帰還していただけるような施策を講じていただけたと思いますし、またあわせて、いわゆる廃炉に従事なさっている方も大勢お住まいになられておりまして、そうした方と、また、元からお住まいの方との、いわゆるそれが町長のおっしゃる新しいまちづくり、新しい価値を持ったまちづくりということではないかなと思います。そうしたところに御腐心をいただくというふうに思いますが、そうしたことについても、復興庁として御支援できることをしっか

りやっていききたいという、そういう思いで今日はお話をお聞かせいただきました。

(問) 大臣、会見等でも繰り返し今、福島は他の被災2県と比べてなかなか短期間での復興が難しい、より長期的な目で見なければならぬということをおっしゃっていますけれども、今日改めて二つの町の町長の方とお話をされて感じた福島でより重点的に取り組んでいかなければならぬ、加速化していかなければならぬと考える課題というのをお聞かせください。

(答) 双葉町については、何をおきまして、やはり除染、それから中間貯蔵を受け入れていただいて、考えていただいておりますので、そうしたことを早くやらなければなりませんし、それから復興拠点、やはり御帰還いただくには復興拠点の整備というものが大変大切だということを感じさせていただきました。

また、広野町では先程来申し上げているとおり、新しいまちづくりというのをもう始めていただいているというふうに思います。

それはそれで、また新たな課題というのが、今日、町長から示されたわけでありますから、双葉、広野少し状況は違います。ですから、その双葉郡の8、あるいはまた被災、このいわゆる12市町村と言われておりますけれども、それぞれがやはりいろいろまちづくり、あるいはまた帰還の状況に応じて新しい課題というのが出てきているんだろうというようなことを感じますので、それぞれの状態に応じた復興庁としての支援のあり方というのがあるんだろうというふうに思います。

すなわち、正に被災地の方に寄り添ってということが大事だということを、今日に限らず福島、何回も入らせていただきましたけれども、そういったようなことをいつも感じさせていただいているということかと思えます。

(問) 明日から国会の閉会中審査が始まります。大臣の政治資金問題について、野党は追及する構えを見せておりますが、大臣はどういった姿勢で臨まれるお考えかというのと、改めてまた御自身の進退についてのお考えをお聞かせください。

(答) 正に真摯に説明責任を果たしていきたいというふうに思っております。また、私自身は今やるべきことは、この復興大臣としての職責を全うするということが責任の果たし方だというふうに思っておりますので、しっかりとその方向で頑張っていきたいという思いでございます。

(以 上)